

4・28沖縄デー闘争へ!

2016年4月18日

No.378

Tel 03-3651-4861

mail_cn001@zengakuren.jp

http://www.zengakuren.jp/

全学連(斎藤郁真委員長) 書記局通信

入管法・外登法を撃つ

4・17関西交流集会打ち抜く!

集会での京大生による決意表明

全学連から闘いの報告と決意を述べます。

韓国の労働者が、戦争に向かう帝国主義の支配の一角をついに食い破りました。東京の新聞には、パククネは予想外の惨敗をした、若者らの怒りを読みきれなかったと報道されています。韓国の青年・学生の勝利に、日本の学生がどうこたえるのか、これが私の発言のテーマであると思います。

私たちは昨年10月27日、京都大学において戦争反対のバリケードストライキを打ち抜きました。

昨年の10月、韓国の仲間は民主労総のハンサンギョン委員長を先頭に、パククネ政権打倒の国民総蜂起へ向かって進撃していました。トルコの労働者は、首都アンカラで、ISのテロ攻撃により多くの仲間を奪われながらも、シリアへの空爆に踏み切ったエルドアン政権に対して命がけで立ち上がっていました。

日本では、数万人が国会を取り囲む中、9月18日に安保関連法案が強行可決されました。その直後に、最後まで反対していた全学連の仲間4名は、監禁容疑をでっち上げられ逮捕されました。安倍は11月2日には戦争のための日韓首脳会談が行われ、日本の侵略をなかったことにする日韓合意がとりつけられました。日本共産党など日本の野党勢力は安倍政権に対して怒り高まる学生を、7月の選挙の広告塔に利用することしか考えていませんでした。全学連ではない学生グループのリーダーは、夏休みが9月で終わるので、キャンパスの日常へ帰ろうとしていました。



この10月に、私たちは海外の仲間との団結にかけて、誰にも頼らず自分たちの力で戦争をとめ、未来を切り開くためのストライキを闘うことを決断しました。そして、やりきりました。

私たちと同世代の仲間が、家庭が貧困なために自衛隊に入隊し、戦場に向かおうとしています。大学では自衛隊の装備のための公認の軍事研究が行われ始めています。これらに対して、一言も意見を言えず、議論も出来ない大学。今を議論し、未来をつくる世代が集まっている大学で、学生は授業とアルバイトに追われて日々が過ぎていく。安倍政権を倒し、戦争を止めるために、まずこの日常を打ち壊す必要がありました。

10月27日、私たちは京都大学の一つの校舎のすべての入り口を大きな看板で封鎖し、それを半日間守り抜きました。民主労総のゼネラルストライキに比べればはるかに小規模で短期間のこのストライキは、しかし、かつて学生だった私たち

辺野古への新基地建設許すな! 改憲-朝鮮侵略戦争とめよう!

4・28沖縄デー闘争

4月28日(木) 12時半~ 法政大・市ヶ谷キャンパス集合

※13時半デモ出発

16時~ JR新橋駅から国会議事堂へデモ

※15時半集合



の親の世代には1970年代ベトナム戦争をアメリカの敗戦に追い込んだ安保闘争を思い出させ、今の学生には高い学費と厳しい単位制度で頑強に作られているように見える大学支配を打ち崩せるかもしれないという期待をつくりだしました。

そして、私たちは11月1日東京の集会で韓国、トルコの仲間と合流し、自分たちの闘いがまったく正しかったことを確信しました。私たちがストライキを決断したのは、それで学費が下がったり、学長や政治家が改心してくれたりという、なにか計算された勝利があったからではありません。自分や自分の仲間に、韓国やトルコの仲間を殺させるようなことがあってはならないという決意があったからです。また、その仲間たちが、どんな弾圧もはね返して闘えるという勇気を身を持って示してくれたからです。これが国際連帯の力だと思います。安倍政権の下で、私たちの在日・滞日労働者の仲間達にかけられている許しがたい誹謗中傷・罵詈雑言は、この国際連帯の力に追い詰められた負け犬の遠吠えに他なりません。

ストライキを闘った私たちの団結を崩そうと、安倍政権はストライキから4ヵ月後に4人の学生を逮捕させました。私も逮捕されました。

5月に日本で行われるG7サミット、7月に憲法改悪を目指して行われる選挙に向かって、政治家ではなく労働者や学生自らが力をもつようなストライキは絶対に認めないという安倍政権の意志の現れでした。

さらに、大学の学長も警察と一緒に「ストライキによって業務を妨害された」「大学は被害者だ」と訴え、私たちを刑事告訴しました。私たちを起訴し、見せしめとして数ヶ月間閉じ込めれば、日本の労働者や学生はもう二度とストライキをやろうなどと思わないと考えたのです。

しかし、これも彼らの読み違いでした。

警察による逮捕への抗議、刑事告訴した大学への怒りはあつという間に京都から全国に広がりました。日本中の職場でス

トライキの是非が議論され、関西中から労働者が救援活動に駆けつけました。早期釈放を求める署名は2500筆を超えました。そして、起訴を粉碎し、奪還を勝ち取り、今日ここに立っています。

第二次世界大戦前、同じく京都大学の学生にかけられた弾圧を、当時の労働者や学生は最後には打ち破ることが出来ませんでした。しかし、私たちは今回うちやぶりました。これは日本の労働者階級にとって大きな勝利です。

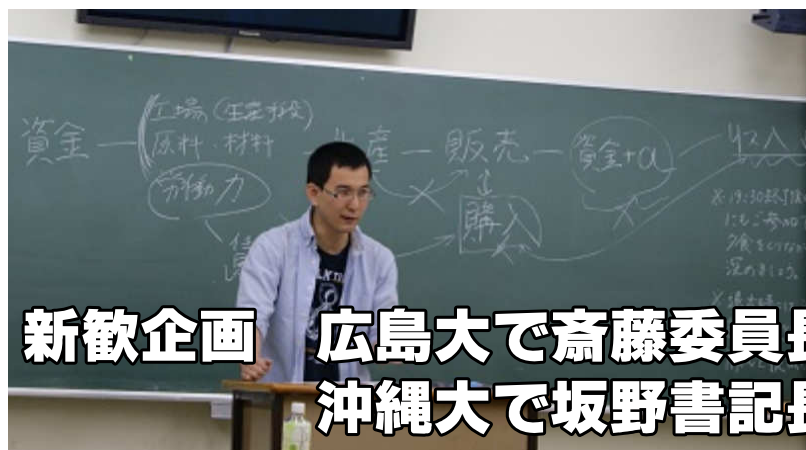
そして、韓国の労働者の今回の大きな勝利があります。フランス、ブラジルをはじめ、世界各国でも労働者の闘いが前進しています。勝利は私たちにあります。

全学連は、この5月から7月にかけて、全国の大学にストライキを闘うための学生自治会の執行部を選出させます。7月の国会選挙には、私たちのリーダーである法政大学の齋藤いくま君を擁立して闘います。彼が訴えるのは部分的な要求のための政策ではなくて、戦争を止め、社会全体を取戻すためのゼネストによる革命です。

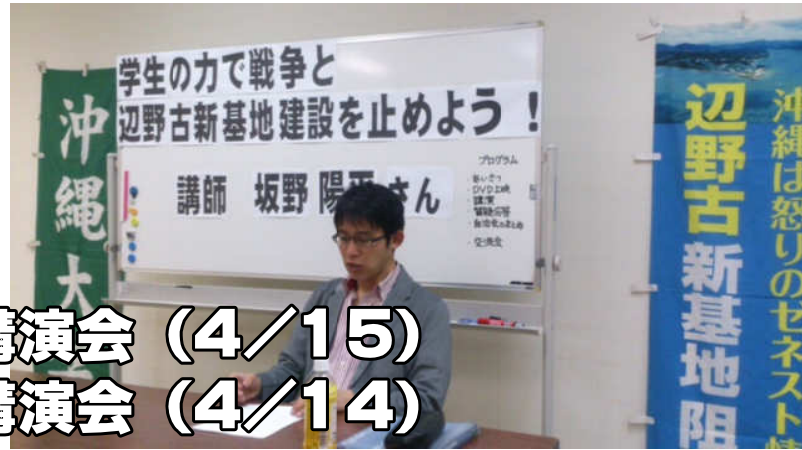
労働運動と学生運動、そして国際連帯の力でともに闘いましょう。



4月17日、東京・国分寺で新歓A2BC上映会



新歓企画 広島大で齋藤委員長講演会 (4/15)
沖縄大で坂野書記長講演会 (4/14)



【当面する行動方針】

●4・24全国交流会

打ち破ろう分断! 取り戻そう団結! 世界の労働者は団結して闘おう!

4月24日(日) 13時~ 川崎市産業振興会館ホールにて

主催: 外登法・入管法と民族差別を撃つ全国実行委員会

●5・15沖縄現地闘争

5月14日(土)~16日(月) ひめゆり資料館見学、沖縄県民大会参加、国際通りデモ、沖縄大で集会(予定)

